

小学校学習指導要領における音楽科歌唱共通教材の認知度と 難易度別ピアノ伴奏の印象についての調査

Research of the Recognitions of the Common Music Singing Teaching Materials and
the Impressions of Piano Accompaniment by Difficult Levels in the Course of Study for
Elementary School

次世代教育学部教育経営学科

中家 淳悟

NAKAIE, Jungo

Department of Educational Administration

Faculty of Education for Future Generations

キーワード：音楽教育，小学校歌唱共通教材，ピアノ伴奏

1. はじめに

小学校教員養成課程を有する本学にて著者は音楽科目を担当している。年間で3科目（音楽の理解，器楽演習，器楽歌唱の指導法）16クラス程度開講しており200名程度の学生が受講している。その学生達の多くが音楽についての知識，理解度が低いように感じる。ピアノの鍵盤でドの音の位置がわからない，楽譜で五線のどの位置が何の音かもわからない学生も中にはいる。学習指導要領に則った音楽の授業を適正に学習したのかを疑問に思うほどである。この状況は学力の高低の問題ではなく，音楽を適正に習ったか習っていないかの問題であるように考える。

この状況には様々な要因が挙げられるが，小学校現場において担当教員の音楽知識や，実技技能の差でこの状況が発生している可能性があることは推察できる。小学校教員養成課程の音楽科目を担当するにあたり，この差がなくなるよう，日々の講義に取り組んでいるが小学校で学習すべき音楽科の知識や内容を15回の講義，演習で全てを適切に習得させ，学生が教壇に立った際，児童に正しい学習内容を指導することができる状態にするには時間が足りないように思う。音楽経験が確実に不足している。適切に音楽の授業を展開するには音楽の基礎知識，音楽理論，実技技能の習得が必要不可欠であり，これらの能力が授業を展開するために十分なレベルに達するには，音楽経験が少ない学生にとっては大学の講義，演習だけでは非常にハードルが高い。

そこで小学校学習指導要領に収録されている歌唱共

通教材に関する学生の認知度を調査し，各学年の歌唱共通教材の各曲がどの程度認知されているのかを明らかにする。これにより歌唱共通教材がどの程度教材として取り上げられて来たのかを計り，小学校時代の歌唱共通教材への取り組みを推察する。重ねて小学校歌唱共通教材のピアノ伴奏難易度別印象調査を行い，学生が歌唱の伴奏に対して，「弾きたい伴奏」と「弾くことができる伴奏」との差を調査する。

この二つの調査により今後の小学校現場での音楽教育と教員養成課程での音楽教育の双方の一助となる研究に繋げたい。

2. 調査内容

(1)，(2)の2種類の調査を行った。

(1) 小学校学習指導要領歌唱共通教材認知度調査

・調査形式

無記名のアンケート形式。

・アンケート内容

歌唱共通教材24曲のタイトルが学年順に1年～6年まで並んでおりピアノで各曲を2回演奏し対象者はピアノ演奏を聞いて各曲についての自らの認知度がどれに当てはまるのかを選択する。選択肢は以下の通り。

- ①曲名を知っているし曲も知っている。
- ②曲名は知らなかったが聞いたらかかった。
- ③曲名で知っていたと思ったが聞いてみると知らない曲だった。

④曲名も知らないし聞いてもわからない。

対象者には選択する際の注意点として大学で学習してから認知度ではなく、高校在学時までの認知度で選択するように説明している。

・対象者 器楽演習Ⅰ、Ⅱを受講する学生36名。

(2) 小学校歌唱共通教材のピアノ伴奏難易度別印象調査

・調査形式

無記名のアンケート形式。

・アンケート内容

Q1, 音楽経験はありますか? はい いいえ

Q2, 音楽に興味はありますか? はい いいえ

Q3, 音楽は得意ですか?

得意 得意ではない どちらでもない 苦手

Q4, 小学校の教員を目指していますか?

はい いいえ

Q5, Q4ではいと答えた人は学校の教員になった際、音楽の授業をすることは不安ですか?

不安 不安ではない

Q6, A～Dでどの伴奏が良かったか順位をつけてください。 1位 2位 3位 4位

Q7, あなたが小学3年生ならA～Dのどの伴奏なら元気よく歌いますか? ◎, ○, △, ×で答えてください。複数回答可

Q8, A～Dのどの伴奏なら授業の時に自分で弾くことができそうですか? ◎, ○, △, ×で答えてください。複数回答可

Q9, A～Dのどの伴奏で弾けるようになりたいですか? ◎, ○, △, ×で答えてください。複数回答可

(Q7～Q9の複数回答可の意味はA～D全てに◎をつける回答も可の意味)

Q7～Q9までの質問は選択肢を文章で表現すると微妙なニュアンスを表現しきれないため、選択肢を記号で表現し直感的に回答できるようにした。

・対象者 器楽演習Ⅰ、Ⅱと器楽・歌唱の指導法を受講する学生72名。

・題材

歌唱共通教材の3年生で扱う「ふじ山」を題材として用いた。用いた理由は(1)小学校学習指導要領歌唱共通教材認知度調査の結果24曲中12番目の認知度であったため認知度が高過ぎて曲のイメージが固まり過ぎず、低過ぎて曲のイメージが付きにくくならないよう配慮した。A～Dは難易度順に並んでおりAが一番難易度が低くDの難易度が一番高い。A～D各曲の編曲は以下のような点に留意して行った。

・A, ふじ山(ルート伴奏)

左手で行う伴奏を一番シンプルな形で行っている楽譜である。伴奏をルート(主音)のみの1音だけで構成しており、指一本でも弾くことができる。しかしながら伴奏としては音数とリズムが物足りない感じは否めない。

・B, ふじ山(コード伴奏)

左手で行う伴奏をコード(3和音)で行っている楽譜である。Aの楽譜とコード進行とリズムは全く同じだが左手は常に3つの音を押さえるような形になっている。コードで伴奏を弾いているのでAよりは音に厚みが出る。

・C, ふじ山(4ビートコード伴奏)

左手で行う伴奏のリズム形が4分音符で刻んでいる(4ビート)楽譜である。コード進行は変化を持たせるためにGのコードをG7のコードの置き換えているところもあるがフィフス(第5音)を省略して記譜しているため押さえる音は3つなのでBと運指的には大きな差はない。4ビートで伴奏がリズムを刻んでいるのでA, Bの編曲よりはリズムカルに聞こえる。

・D, ふじ山(通常伴奏)

左手で行う伴奏が一般的な形になっている楽譜である。難易度的にはバイエル終了程度のピアノ演奏能力が身につけば問題なく弾くことができる。フレーズが変わると伴奏のリズム形も変えており8分音符も使用しているのでA～Dの中では一番旋律に合った伴奏の形になっている。

A、ふじ山(ルート伴奏)

文部省唱歌
作詞 巖谷小波
編曲 中家淳悟

♩ = 112

Chords: C, G, C, F, G, C, G, C, F, G, F, C, G, C

B、ふじ山(コード伴奏)

文部省唱歌
作詞 巖谷小波
編曲 中家淳悟

♩ = 112

Chords: C, G, G7, C, F, G, C, G, C, F, G, F, C, G7, C

C、ふじ山(4ビートコード伴奏)

文部省唱歌
作詞 巖谷小波
編曲 中家淳悟

♩ = 112

Chords: C, G, G7, C, F, G, C, F, G, C, G7, C

D、ふじ山(通常伴奏)

文部省唱歌
作詞 巖谷小波
編曲 中家淳悟

♩ = 112

Chords: C, G, G7, C, F, G7, C, G, C, F, G, C, F, G7, C

3. 調査結果

2種類の調査の結果（1）小学校学習指導要領歌唱共通教材認知度調査ではアンケート結果は表1のようになった。

表1. 小学校学習指導要領歌唱共通教材認知度調査アンケート結果

曲名	学年	①曲名を知っているし曲も知っている	②曲名は知らなかったが聞いたらかわかった	③曲名で知っていると思ったが聞いてみると知らない曲だった	④曲名も知らないし聞いてもわからない	認知度(%)
かたつむり	1	34	2	0	0	100
うみ	1	33	3	0	0	100
春がきた	2	32	4	0	0	100
タやけこやけ	2	30	5	0	1	97
虫のこえ	2	21	14	0	1	97
ふるさと	6	30	3	0	3	92
さくらさくら	4	27	6	0	3	92
もみじ	4	23	8	0	5	86
かくれんぼ	2	12	18	2	4	83
春の小川	3	23	5	0	8	78
ふじ山	3	18	9	1	8	75
茶つみ	3	19	7	0	10	72
ひらいたひらいた	1	19	4	2	11	64
子もり歌	5	12	7	2	15	53
とんぴ	4	12	4	1	19	44
うさぎ	3	7	8	0	21	42
日のまる	1	12	2	1	21	39
まきばの朝	4	10	4	0	22	39
おぼろ月夜	6	10	2	3	21	33
われは海の子	6	9	2	1	24	31
こいのぼり	5	5	4	11	16	25
冬げしき	5	4	3	1	28	19
越天楽今様	6	0	2	1	33	6
スキーの歌	5	0	2	1	33	6

表1のアンケート結果の読み取り方を①曲名を知っているし曲も知っている、②曲名は知らなかったが聞いたらかわかった、の二つの選択肢を認知していると判断し、③曲名で知っていると思ったが聞いてみると知らない曲だった、④曲名も知らないし聞いてもわからない、を認知していないと判断した。この条件の下、認知度が上位となる80%を超えている曲は24曲中9曲であり、認知度が100%の曲は24曲中、かたつむり（1年）、うみ（1年）春がきた（2年）の3曲だけであった。認知度が80パーセントを超えている曲の中で1年生、2年生の曲が66%を占めている。認知度40%

以下の曲は24曲中8曲あり、下位3分の1にあたる曲の中で5年生、6年生の曲が75%を占めている。低学年では認知度が上がり、高学年にいくに従い認知度が下がる傾向にある。3年生、4年生の曲では80%～40%の中に3年生の曲全てが入っており、4年生の曲もそれに近い数字がある。

全学年の曲を見ると低学年の曲は認知度が高く、学年が上がるほど認知度は低くなっている結果となった。

もう一方の（2）小学校歌唱共通教材のピアノ伴奏難易度別印象調査のアンケート結果は以下のようになった。

Q1. 音楽経験はありますか？

はい 39名 いいえ 33名

Q2. 音楽に興味はありますか？

はい 61名 いいえ 11名

Q3. 音楽は得意ですか？

得意 22名 得意ではない 32名

苦手 18名

Q4. 小学校の教員を目指していますか？

はい 50名 いいえ 22名

Q5. Q4で、はいと答えた人は小学校の教員になった際、音楽の授業をすることは不安ですか？

不安 45名 不安ではない 5名

Q6～Q9の結果は表2～表5を参照。

表2. Q6. A～Dでどの伴奏が良かったか順位をつけてください。

	A	B	C	D
1位	5	14	8	45
2位	10	9	38	15
3位	17	34	13	8
4位	41	15	13	3

表3. Q7. あなたが小学3年生ならA～Dのどの伴奏なら元氣よく歌いますか？

	A	B	C	D
◎	6	13	42	44
○	20	23	20	17
△	20	21	3	5
×	20	8	2	3

表4. Q8, A～Dのどの伴奏なら授業の時に自分で弾くことができそうですか？

	A	B	C	D
◎	39	30	13	2
○	24	29	17	7
△	6	3	23	13
×	2	6	14	43

表5. Q9, A～Dのどの伴奏で弾けるようになりたいですか？

	A	B	C	D
◎	28	31	44	49
○	18	23	18	13
△	4	7	2	4
×	13	4	0	2

(Q7～Q9は複数回答可でA～D全てに◎をつける回答も可)

こちらの(2)小学校歌唱共通教材のピアノ伴奏難易度別印象調査のアンケート結果では、Q1の音楽経験は学校の授業での音楽経験は除いて回答するように説明をしたが半数を超える39名の学生が、はいと回答した。Q2では80%を超える学生が音楽に興味があると回答している。このことから音楽自体に興味関心はある学生は多いことがわかる。Q3で音楽が得意と回答した学生は約30%の22名で苦手と回答した学生18名より多い。Q4から教員を目指している学生は50名おり、その内9割の45名の学生が教員になった際、音楽の授業をすることに不安を感じている。

では伴奏についてはどのような印象を持ったのか結果を見るとQ6では難易度が一番高いDを1位に挙げている学生が一番多く、Aを1位に挙げた学生が少数となり難易度の高い伴奏の方が印象が良い結果になった。これはQ7でも同様の結果となり難易度が高いDの印象が良い結果となっている。

この結果と逆にQ8の授業の時に自分で弾くことができそう、Q9のどの伴奏で弾けるようになりたいかの質問では難易度が低いAと回答する学生が増えている。Q8ではQ6、Q7の回答がひっくり返って回答されているような感じを受ける。

聞くなら難易度の高い伴奏。弾くなら難易度の低い伴奏の印象が良くなるという結果が出ている。

4. まとめ

調査結果から(1)小学校学習指導要領歌唱共通教材認知度調査では学年が上がると認知度が下がる結果が出たが、これには様々な理由が考えられる。高学年になると取り組むことができる学習内容が増え歌唱だけでなく鑑賞や器楽などにも取り組むので歌唱に取り組む時間が減ることから認知度が下がるとも考えられる。一方で歌唱に取り組むためには必要となるピアノ伴奏の難易度が高学年の曲ほど上がるので、担当教員が教材として取り上げ難くなっている可能性も高い。(2)小学校歌唱共通教材のピアノ伴奏難易度別印象調査からは学生の「弾きたい気持ち」と「実技技能」にずれがあることがわかる。実技技能に自信が持てずにピアノ伴奏を避けて通りたい気持ちもわからなくなっているが、歌唱を取り上げないことによって音楽を義務教育で扱う大きな意義である「文化の伝承」がされないことにより、失ってしまう古き良き美しい日本の文化は計り知れない。今後は今回の調査内容を活用し実技技能が低く簡易な伴奏しかできなくても、授業能力でそれを埋められるような指導方法の研究開発に生かしたい。

参考文献

- 宮崎新悟, 志民一成, 編著(2017) 小学校新学習指導要領の展開平成29年版音楽編, 明治図書出版
- 石井宏美, 虫明真砂子(2011)「小学校の音楽科における歌唱共通教材のあり方について」岡山大学教師教育開発センター紀要, 第1号, pp.57-68
- 坂井康子, 岡林典子, 南夏世, 佐野仁美, 編著(2008)『教育・保育の現場で毎日使えるコードでかんたん!マイ・レパートリー』, 株式会社ヤマハミュージックメディア, pp.89-114